

# 本を選ぶ

## 高校図書館版

NO.18 1994年(平成6年)11月10日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

本社 〒162 東京都新宿区下宮比町2-28 飯田橋ハイタウン517 TEL03-3235-6168

ぶっく・えんど

### ある日、図書室で

家から5分という近さがとりえの高校は、特に進学校でもなく、ゆったりと時間が流れていた。クラブ活動に明け暮れ、友達とのおしゃべりは夜の長電話にまで延々と続いたが、それでも本を読む暇はあった。うっとおしい現実から本の世界へ逃げ出すのは、小学生の頃から得意だった。中学時代は1時間早く家を出て、誰もいない教室で新潮文庫のモンゴメリの作品を順番に繰り返し繰り返し読んでいた。一日を元気にやってのけるための儀式みたいに。

さすがに高校ではそれはしなかったが、ひたすら乱読を重ねた。高校の図書室の蔵書は古い参考書が主であり魅力的ではなかった。たまに少しだけある文庫や新書をめくってみるくらいで、本はもっぱら市立図書館から借りていた。両親のカードも使うと、一度に15冊は借りられたし、書架のあいだを散歩しながら、手当たりしだいにひっぱり出してページをめくってみるには丁度よい広さ(狭さ)の図書館だったのだ。何の予備知識もない読み飛ばしのなかから、自分の好みの傾向がおぼろげにわかってくる。カポータやブラッドベリ、サリンジャーなんかを発見していた。晶文社の<文学のおくりもの>シリーズは、

未読のをみつけるとその日は幸せだった。

それでも読むものが足りなくて、妹の本を勝手に読んだ。その頃妹は同じ市立図書館でもっぱら児童室の常連だった。読みやすいのでおやつ代わりにとばらばら読み出した児童文学に、気がつくとすっかりはまっていた。ナルニア国ものがたりの続きを妹が借りてくるのが待たなくて、自ら児童室に顔を出すようになっていた。

そんなある日、高校の図書室で1冊の新書本をみつけた。石井桃子著『子どもの図書館』(岩波書店)である。石井さんが自宅でかつら文庫を始められ、その活動の様子が克明に記されている。いきいきとした子どもの様子、やりがいのある楽しそうな活動。これだ! と思った。将来の方向などにも考えていなかった高校生に、子どもと本を結ぶ仕事っていいなあ、やってみたいなあと思わせるほどにインパクトのある本だった。けれども本当にそんな夢みたいなきことができるものかと思っていたのだ。

返却日に本を受け取ってくれたのは図書委員の日本史担当の先生だった。「おまえこんな本読んだのか。実はうちのかみさんが家で文庫をやつとるんだが…」。全く具体性がなかったプランがいきなり現実になった。そんな仕事身近にもあるんだ! それならきつとやってみよう!

それから実際にその先生と交流があったわけではない。あの一言だけだった。あのとき先生が特に親しくもない生徒にさりげなくかけてくれた一言。それが活字の世界を天然色の現実にした。そうして今に続く何かが始まったように思う。

(引原直美: 京都造形芸術大学・京都芸術短期大学児童図書館)

# パソコンを使った貸出始まる

私のコンピューター導入奮闘記⑤

木下通子

1993年4月からいよいよコミックの貸出開始。その当時1000冊程度だったコミックのデータは簡易入力（分類、図書記号、登録番号、書名、著者名、出版社、書名ヨミだけ入力）が済んでいたもので、3月中に貸出ソフト『かすぞう君』に落としていました。

さて、問題の貸出業務。最初は失敗の連続でした。借りにくる生徒のほとんどがIDカードを持って来ないので、その生徒のID番号を探すのに一苦労。何日かしてクラス順の一覧表を打ち出せばいいんだと気づくまでは、「ちょっと待ってね」と言ってパソコンで検索するありさまでした。その上、貸出をしようと思うとくだらないミスをします。IDカードがあって本を借りるときには、IDカードをピツ!とバーコードリーダーでなぞって、その次に本をなぞればいいのですが、IDカードが無い場合は、利用者番号にアスタリスク(\*)を入力しないと、パソコンが読み込んでくれません。バーコードには番号の最後にチェックデジットという数字が入っているのですが、\*が数字のかわりをするのです。利用者番号を入れてリターンキーを押しても利用者データが出ない時は「何でこうなるんだろう」と悩んでしまって、しばらくして\*を忘れてた!なんていうこともありました。

## 本の紹介を始めました

前号で紹介した「らいぶらりい いんふおめーしょん」は、1993年度もちろん発行しました。そして、この年から「今週の司書が選んだ この一冊」という本の紹介コーナーを作ることにしました。毎週々々本を紹介するというのはしんどいことでしたが、紹介した本は必ず借り手がついて、ついでに予約もかかります。本を読まなくなったと言われる高校生も「本の中身がわかれば借りるんだ」という手ごたえが出てきました。

93年度は授業関係のものを中心に、ブックリストをたくさん発行した年でもありました。こんなときに「LIBROS」に完全にデータが入っていたらもっと楽なのだと思います。「LIBROS」は大量の書き込みが大得意なソフトなので、データを入力するときはその本の内容を打ち込んでおくこともできます。テーマにあった本を検索し、必要な項

目をワープロソフトに落としてプリントアウトし、解題つきのブックリストにするというのも、入力さえきちんとしていれば楽々できるのです。

ところがみなさんもお存知のように、遡及分のデータはまだ完全に入力できていません。データが入っているものについては、分類などから検索してワープロに落とせるのですが、入っていないものは、目録カードを見ていくか、書架を歩いて使えそうな本を見つけるかしてワープロに打ち込むしかありません。

それまではブックリストと言っても、分類や書名や出版社だけが羅列されている一覧表形式のものしか作っていなかったのですが、「いんふおめーしょん」での紹介の効果を信じて、この年から紹介する本の解題を入れることにしました。

作ったリストは二年生修学旅行レポートのための「原爆」について、社会科の授業のための「エイズ」について、英語の授業のための「インディアン」についてなどです。その中で前々回の号でご紹介したCD-ROMが大活躍したのが「原爆」についてのブックリストでした。

## 修学旅行レポート

ここで話がいったん1992年に遡ります…。

岩槻商業高校は学校全体で平和教育に力を入れている学校なので、二年生の修学旅行には必ず広島が入ります。その年によって形はさまざまですが、事前学習で戦争について学んでから広島を訪ねるのです。図書館と二学年との事前学習に関する協力は、私が勤める以前からあったのですが、本格的に連携し始めたのは、パソコンが導入された1992年からでした。

それまでは事前学習に関する資料提供といっても、うちの図書館にある本だけをレポートのテーマごとにピックアップし、テーマごとの目録を作る、という形のサービスしかしていませんでした。つまり、生徒はその主題目録を引いて書架にあたり本を探す、というやり方です。ところが、二年生は、300人近くいるので本校のものだけだとどうしても資料が足りません。早く来た人には

資料を提供できるのですが、あとの子には「ごめんね、公共図書館を利用して」とあやまることになり、遅く来た生徒は“レポートなんてやりたくないなあ”と思っている子がどうしても多いので、公共図書館に自分から出向くわけもなく、期限内にレポートができなくて…。という悪循環を繰り返していました。

### 本を借りまくる

前年に学校図書館問題研究会(注)の全国大会で、「教科との連携」について学んだこともきっかけとなり、“とにかく必要とされている資料を集めなくちゃ”と、この年は他校の図書館や公共図書館からテーマに合わせた本を借りられるだけ借りることにしました。

学校図書館には特定の本を指定せず、テーマをお知らせして関連する本を集めてもらったのですが、市立、県立を含めた7館から本を借りて、うちの学校の蔵書も含めて集まった冊数が1056冊。集まった本の量に、まず驚きました。テーマによって多少のばらつきはありますが、単純計算しても一人3冊の本を提供することができます。

それまでも他館から本を借りることはあったのですが、こんなに大量の冊数を借りるのは初めてでした。本を借りて回るのも大変です。一人ではとうてい無理なので、学年の先生、分掌の先生と協力し、コースをわけて本を借りました。

本が届くと、どのジャンルにどんな本が入ったか「LIBROS」にデータを入力していきました。通常、分類番号を入力するところにレポートのテーマ番号を入れ、書名、著者名、出版社、お借りした館名と複本の場合はそれがわかるように記号をつけて1冊1冊入力しました。

この時期はちょうど夏休み前の球技大会中で、生徒は午前中、校舎内立入禁止。集中して入力することができます。本が集まってから貸出を始めるまで日数がなく、死にもの狂いで入力しました。入力は朝8時頃から始め、夜7時頃まで、途中ほとんど休まずに打ち続けて、まる二日かかりました。そして、学年のレポート担当の先生に協力してもらって、入力できたものから貸出券を作り、本にはさんでいきました。

全部入力してから、テーマごとにプリントアウト

しました。それに表紙をつけてブックリストの出来上がり。項目別の一覧の外に図書館別のリストもつけたので30頁ちょっとと厚めになってしまったのですが、図書館で使う分を4冊、クラスに1冊ずつ、本をお借りした館に1冊ずつ、とプラスチックで、全部で15冊ほど作りました。

この年の図書館からのサービスは生徒からも、先生からもなかなか好評でした。複本がある程度そろったこともあって、遅く来てもお目当ての本が残っていることが多く、レポートの提出率も少し上がったようでした。本はコーナーを作り別置して対応したので、レポート学習のために夏休みの図書館開館日に学校に来る生徒も出てきました。私も「このテーマの本でどの本がわかりやすい？」という質問を受けたりしました。

この年にレポートで貸出した本の冊数は248冊。初めてのことでこちらの貸出方法も悪く、無断持ち出し等で10冊近くを紛失しました。買えるものは買って、だめなものには図書券や金額が同じでご希望の本を、学年費から出してもらってお返ししました。

### CD-ROM大活躍

さて、「LIBROS」にデータが入力されていて他館で持っている本がわかっているから、今年は本を探してもらいやすい、昨年よりはうまくやるぞ！と思った1993年度。“修学旅行レポートのテーマが決まったら、早めに内容を教えて下さいね”と学年の学習担当の先生に、5月頃からお願っていたのですが、今年の取り組みというのを依頼されたのがなんと7月に入ってから。それも、今年はレポートをやめて「原爆」を題材にした本を読んでその感想を書くという読書感想文に内容が変わっていたのでした。

レポートだったらこうしようとアイデアをねっていた私としては、まず感想文という内容にびっくり。「原爆」という漠然としたテーマの中からどうやって生徒が本を選ぶのだろうと心配になりました。テーマを決めた先生もお目当てのこれ！という本があるわけではないようで、何冊かの本をテキストとして生徒に提示し、その中から選ぶような形にしようと考えているようでした。

「原爆」をテーマにした本はたくさん出版されていますが、うちの図書館にある本はその中のほ

んの一部。そこで、まずCD-BOOKで「原爆」と引いてみることにしました。CD-BOOKには本の内容が書いてあるので、それをプリントアウトしてそこから選ぼうと考えたのです。1986~1992年のものを検索したら283件ありました。ちよつと多いかなとも思ったのですが、情報はたくさんあった方がいいからと、すべてのデータをプリントアウトし、担当の先生といっしょにその中から60冊ほどを選びました。

それからは本探し。まずうちの学校に何冊あるか確認。無いものを一覧表にして、取引のある何軒かの書店に、在庫のチェックをしてもらいました。それと同時に選んだ60冊を近隣の図書館へファックスして所蔵の検索を依頼。けっきょく最後に1冊でも手に入ることがわかった本が53冊。そのうちの50冊を課題図書としました。

いよいよブックリストの作成です。ここでいちばん最初の話に戻るわけですが、本を少しでも選んでもらいやすくするために、解題つきのブックリストを作ることにしました。

作業は、50冊の本を内容によって、「小説・エッセイ」「被爆体験記」「ドキュメンタリー・ルポルタージュ」「原子力発電に関すること」と、4つのジャンルに分けることから始めました。私も全部の本を読んでいるわけではないので、解題を書くツールとしてCD-BOOKやブックガイドとして発行されている『1800冊の戦争』（かがわ出版）『原爆を読む』（講談社）等も参考にしました。

この時も時間との闘いでした。夏休み貸出を始めるまでになんとかリストを完成させなければなりません。リミットまであと二日。ブックガイドのようなものをめざしていたので、解題を入力するだけでなく、カットやレイアウトのことも考えなければなりません。編集は一人で、印刷、製本は先生方や生徒にも協力してもらって、どうにか間に合うことができました。このことをきっかけに、この年の学習担当の先生も図書館とCD-BOOKの便利さをわかってくれたようで、それから図書館を利用してくれるようになりました。

こうして1993年も暮れていく

さて、今回は修学旅行レポートの話に終始して

しましたが、もちろんこの仕事ばかりやっていたわけではありません。本は年間1300冊ほど受け入れているのですが、この年には新着図書をパソコンに入力することは全く苦にならなくなりました。「いんふおめーしょん」を出さなくてはという気持ちが強かったので、新刊の受け入れもスピーディーにできるようになり、未整理の本が減ってきました。が、遡及入力は今も進まないのです。貸出が伸びるのにもなって、先生や生徒からのレファレンスやリクエストが増えました。貸出、レファレンス、リクエスト処理、新刊の受け入れ、読書案内、「いんふおめーしょん」の発行と、日常業務をこなすだけで毎日めいっぱい。お昼ご飯を落ちついて食べる時間ありません。新刊をチェックしに書店にも行き、「今週の司書が選んだ この一冊」で紹介する本も読むというサイクルを繰り返していると、とつても遡及入力にさく時間を作れないのです。そこで、日常業務で入力していくことをきっぱりあきらめ、遡及入力は長期休暇中にすることにしました。

—遡及入力の問題をのぞけば、1993年度はとても充実した年でした。貸出も生徒一人あたり11冊、職員一人あたり18冊とぐんと伸び、忙しいながらも“利用されている”という充実した気持ちを、持てるようになりました。

1993年度の終わりには、貸出のパソコンも順調に操作できるようになっていました。コミックの月間貸出統計をパソコンで計算させたり、ベストリーディングを出してみたり…。1994年度末の図書部会で、遡及のデータ入力は途中でも、新規の図書分のデータは入力できているのだから、それだけでもパソコンで貸出してみたら？ という意見が出ました。そして、1994年の4月から一部の本とコミックをパソコンで貸出すことになりました。入力が全部終るまで貸出ししないと決めていたのに…。一部の本というのが混乱を招くのではないか…。私にとってはまたまた不安を抱えた春休みでした。

（きのした みちこ：埼玉県立岩槻商業高校図書館）

（注）学校図書館問題研究会／学校図書館について、お互いの実践や活動を学びあうことを目的に、1985年に結成された学校図書館に関する個人加盟の研究団体

# 青春時代のナイティンゲール

藤田美砂子

フローレンス・ナイティンゲールが、1910年に没してからこのかた、世界中で、またわが国でも、おびただしい数の伝記が出版されました。そのいちばん元になっているのが、没後3年目に同時代人でジャーナリストであったサー・エドワード・クックが書いた2巻本の *The Life of Florence Nightingale* です。本書は世界で読まれた正伝で、歴史書等へも引用された文献的価値の高いものです。フローレンス・ナイティンゲール研究の第一人者モニカ・ベイリーは近著で「クックの2巻の伝記は不朽の名作であり、…ほかのほとんどの伝記は影が薄くなっている」と言っています。わが国でも看護の世界では名の知れたものでしたが、なぜかこれまで翻訳は出ていませんでした。

このたびこれを『ナイティンゲール その生涯と思想』全3巻（中村・友枝訳 定価各3300円 時空出版）として、ついに念願の翻訳出版に漕ぎつけることができました。

編集にあたって、なによりも驚かされたのは、どこか古臭い人物で道徳観念に固まった聖人だろうと思っていた先入観が、根底からくつがえされたことでしょうか。

わが身を顧みず、傷病兵に手厚い看護をして多くの命を救った背景には、強い信仰とそれに基づく弱い立場の人々に対する博愛の心や献身があったのは間違いありません。そして従来のナイティンゲール像とはそのようなもので、われわれとはちょっと掛け離れた偉人として受け止められていました。

しかしながら、ナイティンゲールをクリミア戦争に駆り立て、その後の数多くの偉業を為さしめた主たる動機といえば、自己実現への希求であったといえます。そのため彼女の青春時代は自身の恵まれた境遇への反逆、家族との闘いのときで苦悶の日々でした。

フローレンス・ナイティンゲールは、大英帝国

の最盛期に活躍しました。上流家庭に生まれ、リベラルな環境で父親手ずからの大学の水準を上回る教育を受けて育ちます。若き日に当代の知識人らの間に入っても、聡明さで注目を集めるようになるフローレンスに、社交界の華から幸せな結婚へと母親は期待をかけます。しかし彼女は家事に明け暮れる家庭生活、社交生活のむなしい日常の義務からのがれ、自分を賭け人々の役に立つ仕事

につきたいと切望しますが、方途もわからず、また親の希望に沿えぬことに悩みます。

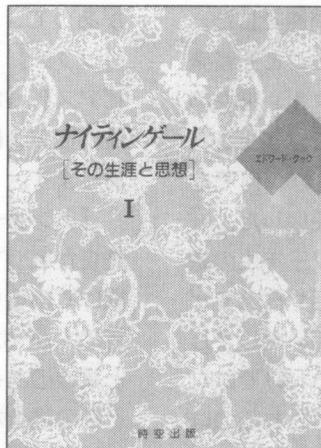
目指すところが看護への道だとかわかったとき、ついに家族と真つこうから対立します。当時の看護婦は貧困層の身を持ち崩した女性の仕事であったため、彼女の理想は理解されず、訓練を受けようとした計画も母親につぶされます。落ち込み、気力をなくしながらも、かろうじて調査、研鑽を積み、とうとう「困難は克服し、必要なものは自分の手で獲ち取らねば」と決断し反対を押して

看護の道へと踏み出しました。その翌年にクリミア戦争に派遣されるのですが、それは人々がもてはやしたような犠牲ではなく、長らく形をもちえなかった願望の具現化のときでした。親と葛藤し、手探りで一步步つ道を切り開いていった青春期の自立への過程は、クリミアへ向けての、また類まれな生涯への準備期間だったといえます。

以後の看護制度の創設も、今では輝かしい他の数々の業績も、常に硬直した官僚制や時代の偏見と闘ってなしとげられたものです。「ある時代の逆説が次の時代に常識となる」とクックは言っていますが、優しさは強さであり、自身に誠実に生きることだとして示したフローレンスの心の軌跡を、多くの引用によってなまの声で伝え、われわれに共感と勇気をもたらします。

不確定な現代を生きる高校生に、インパクトを与え目を見開かせる書だと思います。

（ふじたみさこ：時空出版）



『ナイティンゲール その生涯と思想』全3巻/  
エドワード・クック著 / 中村妙子・友枝久美子  
訳/A5上製/平均440頁/各3,300円/時空出版

## ★誌上ブックトークテーマはピアス—第1回—

千鶴美田

高校の司書さんが、オリエンテーションなどでブックトークをしたという話をちよくちよく聞くようになりました。本や資料などを合わせてメッセージを伝えるブックトークは、司書の醍醐味を味わえる仕事でしょう。どんな準備を重ねて組み立てていくのか興味深いところです。私たちもその道筋を誌面で辿ってみました。

とはいえ、高校の図書館で働いているわけではないので、テーマ選びが一番難しい問題でした。たまたま、昨年日本で開かれた「世界こども音楽祭」で優勝したモンゴルの13才の少女が、彼女の耳に光るピアスをみて、日本の学校では禁止されているという記者に一「信じられない、何でなの。遅れてる」とVサインをして大笑いした。—という京都新聞(8/24)を読んで、高校三年生の娘が今ピアスをしたいというさく言う話や自分でピアスの穴を開けた高校生の話などを思い出しました。ピアスは誰もが興味を持っているわけではないし、生活指導を目的にしていると思われるのは困るけれど、金属アレルギーについてのTVの特集番組が組まれているし、ピアスのことを知って面白いと感じる人が案外多いかもしれない、こんなふうを考えてピアスをテーマに選びました。

## まず公共図書館へ

私が住んでいるまちには、市立図書館が3館に県立図書館もありますが、私の家からは、一番近い館でも車で20分近くかかります。それで資料を探るときはいつも、まず市立図書館に電話をかけます。それも手のかかりそうな調べものをするときは分館のCさんをお願いしているので、今回も、ピアスに関係のありそうな本はなんでも、しかも2週間以内でお願いしました。

それから私も中央館に行って、司書さんにコンピュータで検索をお願いするとアクセサリーの作り方と宝石関係の本が2・3冊出てきました。書庫から出してもらった『金属アクセサリーの制作』は、専門書という感じの本でした。

司書さんは、はかばかしい資料が見つからないのを残念がってくれて、ピアスは、新聞に載って

る場合が多いのではないかと、新聞記事はパソコン通信だとすぐ検索できること、HIASKという朝日新聞のCD-ROMがあることを教えてくれました。

とは言っても、よその館からHIASKを借りてもCD-ROMは私のまちの図書館では使えないこと、県立図書館でもご同様とのこと。隣の市の中央館にHIASKがあることもわかりました。

Cさんから「あまりなかったけど」という電話があつて、分館へ。『宝飾大全』『ジュエリーボックス』『アンケートデータブック'91』『血のピアス』『さて、コーヒーにしませんか?』の5冊。ピアスについて記述のある頁に紙がはさんであります。

『アンケートデータブック'91』には、1989年の調査が載っていてそれによると、ピアス用の穴を開けているOLや女子大生は19.3%。そのうち40%の人が18才で開けているので、ピアスは高校生と接点のあるテーマになりそうです。ただ5年ほど前の調査なので、最近の調査ではどうなっているのか『アンケートデータブック』の最新版をCさんに電話をしてリクエストしましたが、市立図書館では持っていませんでした。けれども折り返し電話があつて、県立図書館にはあつて、今日はカウンターに出してあるとのこと、県立図書館に出向きました。

『アンケートデータブック』最新版にはピアスの調査はありませんでした。各年版を読み比べると、アンケート調査は、設問の内容がその年の社会状況を映していることも見えてきました。1989年にピアスの調査が行なわれたという点に意味があるようです。

ピアスをテーマにと決めてから1週間が過ぎました。ここまでに手に入った資料では、誌上ブックトークなど、とてもとても…。(LAS探検隊)

★

『金属アクセサリーの制作』(理工学社)『宝飾大全』(読売新聞社)『ジュエリーボックス』(ナツメ社)『アンケートデータブック'91』(日本能率協会)『血のピアス』(サンケイ出版)『さて、コーヒーにしませんか?』(大和書房)

んの一部。そこで、まずCD-BOOKで「原爆」と引いてみることにしました。CD-BOOKには本の内容が書いてあるので、それをプリントアウトしてそこから選ぶと考えたのです。1986～1992年のものを検索したら283件ありました。ちょっと多いかなとも思ったのですが、情報はたくさんあった方がいいからと、すべてのデータをプリントアウトし、担当の先生といっしょにその中から60冊ほどを選びました。

それからは本探し。まずうちの学校に何冊あるか確認。無いものを一覧表にして、取引のある何軒かの書店に、在庫のチェックをしてもらいました。それと同時に選んだ60冊を近隣の図書館へファックスして所蔵の検索を依頼。けっきょく最後に1冊でも手に入ることがわかった本が53冊。そのうちの50冊を課題図書としました。

いよいよブックリストの作成です。ここでいちばん最初の話に戻るわけですが、本を少しでも選んでもらいやすくするために、解題つきのブックリストを作ることにしました。

作業は、50冊の本を内容によって、「小説・エッセイ」「被爆体験記」「ドキュメンタリー・ルポルタージュ」「原子力発電に関すること」と、4つのジャンルに分けることから始めました。私も全部の本を読んでいるわけではないので、解題を書くツールとしてCD-BOOKやブックガイドとして発行されている『1800冊の戦争』（かがわ出版）『原爆を読む』（講談社）等も参考にしました。

この時も時間との闘いでした。夏休み貸出を始めるまでになんとかリストを完成させなければなりません。リミットまであと二日。ブックガイドのようなものをめざしていたので、解題を入力するだけでなく、カットやレイアウトのことも考えなければなりません。編集は一人で、印刷、製本は先生方や生徒にも協力してもらって、どうにか間に合うことができました。このことをきっかけに、この年の学習担当の先生も図書館とCD-BOOKの便利さをわかってくれたようで、それから図書館を利用してくれるようになりました。

こうして1993年も暮れていく

さて、今回は修学旅行レポートの話に終始して

しましたが、もちろんこの仕事ばかりやっていたわけではありません。本は年間1300冊ほど受け入れているのですが、この年には新着図書をパソコンに入力することは全く苦にならなくなりました。「いんぷおめーしょん」を出さなくてはという気持ちが強かったので、新刊の受け入れもスピーディーにできるようになり、未整理の本が減ってきました。が、遡及入力は全く進まないのです。貸出が伸びるのにもなって、先生や生徒からのレファレンスやリクエストが増えました。貸出、レファレンス、リクエスト処理、新刊の受け入れ、読書案内、「いんぷおめーしょん」の発行と、日常業務をこなすだけで毎日めいっぱい。お昼ご飯を落ちついて食べる時間ありません。新刊をチェックしに書店にも行き、「今週の司書が選んだ この一冊」で紹介する本も読むというサイクルを繰り返していると、とっとも遡及入力にさく時間を作れないのです。そこで、日常業務で入力していくことをきっぱりあきらめ、遡及入力は長期休暇中にすることにしました。

遡及入力の問題をのぞけば、1993年度はとても充実した年でした。貸出も生徒一人あたり11冊、職員一人あたり18冊とぐんと伸び、忙しいながらも“利用されている”という充実した気持ちを、持てるようになりました。

1993年度の終わりには、貸出のパソコンも順調に操作できるようになっていました。コミックの月間貸出統計をパソコンで計算させたり、ベストリーディングを出してみたり…。

年度末の図書部会で、遡及のデータ入力は途中でも、新規の図書分のデータは入力できているのだから、それだけでもパソコンで貸出してみたら？ という意見が出ました。そして、1994年の4月から一部の本とコミックをパソコンで貸出すことになりました。入力が全部終わるまで貸出ししないと決めていたのに…。一部の本というのが混乱を招くのではないか…。私にとってはまたまた不安を抱えた春休みでした。

(きのした みちこ：埼玉県立岩槻商業高校図書館)

(注) 学校図書館問題研究会/学校図書館について、お互いの実践や活動を学びあうことを目的に、1985年に結成された学校図書館に関する個人加盟の研究団体

**ちよつと心配  
ペットボトル症候群**

—いまこそ選んで飲む時!—  
食べもの文化研究会編  
A 5判/112頁/1,339円  
病気の原因・実態と予防法まで

**拒食症・過食症とは**

—その背景と治療—  
生野照子・新野三四子著  
B 6判/296頁/1,957円  
専門家・家族・本人の協力で  
克服を目指す治療ガイド

**食べることに  
自信をなくした日本人**

—カルシウム所要量の疑問—  
島田彰夫著  
B 6判/149頁/1,545円  
ヒトの食性とは? Q&A満載

**やめられない清涼飲料  
とまらないスナック菓子**

—成人病の近道にさせないで—  
食べもの文化研究会編  
A 5判/134頁/1,030円  
イラスト・資料でやさしく学べる!

**食べもの文化**

A 5/80頁/520円/8日発売

東京都板橋区板橋1-35-9エムアイビル6F  
TEL.03-3579-7851 / F A X 03-3579-7854

芽ばえ社

**今世紀最大の  
抽象彫刻家の全貌  
ブランクーシ作品集**

定価20,600円(本体20,000円)●内容見本同送

**リブレポート**

〒171 東京都豊島区南池袋2-23-2(電)03-3983-6191

**限りなく広がる知識の世界**

創業104年—辞典500点突破!

**縄文時代研究事典**

縄文文化の全貌を最新の  
資料をもとに整理集成!



戸沢充則編 近年の相次ぐ大発見と研究成果により、縄文時代が注目を浴びている今日、本書は最新の資料を体系的に整理し、縄文研究に必須の2180項目を収録した。B 5判 定価15000円

**東京堂出版**

〒101 東京都千代田区神田錦町3-7  
☎03(3233)3741 図書目録進呈

世界38カ国で1,350万部の大ベストセラーシリーズ

**ビジュアル博物館**

**[45]カウボーイ**

著/デヴィッド・H・マードック 日本語版監修/高荷義之  
世界中のカウボーイの生活にふれることができる楽しい博物図鑑。カウボーイのシンボルである馬、牛、銃、投げ縄などの迫力のある写真の数々から、牧場生活の様子が色鮮やかに蘇るユニークな1冊!

●A 4変型・64頁・オールカラー 定価2,800円(税込)

|||| 既刊48巻 好評発売中 ||||

**同朋舎出版**

〒604 京都市中京区新町通四条上ル小結柳町428  
☎本社 075-212-5900 ☎支社 03-3292-2021

画期的な低価格、かつ内容充実の美術全集!

**アート・ライブラリー**

【全120巻】

【監修】

- A 4変型判(303×224mm)・128頁(作品解説・千足伸行  
作家解説・資料・カラー図版平均50点) 島田紀夫
- 定価各1,680円(税込)・ソフトカバー 森田義之

- ▶美術出版の名門ファインド社(英国)との国際共同出版
- ▶低価格ながら専門家も絶賛の美しい図版と解説。
- ▶他の画集では紹介されなかったことのない個人所蔵の作品も収録

—第1期30巻—

【好評既刊】■ラファエル前派■モネ■オランダ絵画  
■ピカソ■ピサロ■モディリアーニ

【7月配本】■セザンヌ■カンスタブル■ゴッガン■エルンスト■ターナー■イタリア・ルネサンス絵画

【続刊】■ゴッホ■マティス■マグリット■ホルバイン■ムンク■レンブラント■ブリューゲル■クレー/他

**西村書店**

〒102 東京都千代田区富士見1-5-3  
☎03-3239-7671 Fax.03-3239-7622

選手と指導者のためのサッカーの本格的技術専門誌

**サッカークリニック  
Soccer  
c l i n i c**

11月創刊号 ●定価700円(税込)/B5判/好評発売中!

サッカー選手、そして  
あらゆる層の指導者たちへ  
大出た!サッカー新時代に  
ふさわしいサッカー技術雑誌



体育・スポーツ総合出版

日本ベースボールマガジン社 〒101 東京都千代田区三崎町3-10-10 ☎03(3236)0181